

のうぶく通信

【第3号】2024年1月発行

発行元：新潟市あぐりサポートセンター

【令和5年の天候】農産物への影響について

令和5年は酷暑・少雨となり、施設外で農作業を行っていた方々、作業依頼する農業者の方々、共に様々な気遣いをし、ご苦労されている姿を目にしてきました。

また、天候の影響で作物が順調に生育しなかった話も、お聞きする事が多くありました。なかでも、お米への影響が大きかったとの報道もありましたので、新潟県農林水産部に、お聞きしたところ以下のコメントを頂戴しました。



新潟市の令和5年8月の気象は、【平均気温が全国最高】

【日照時間が全国最多】【降水量が全国最少】となり、お米にとっては最悪な気象条件でした。猛暑の中、農家の方々は田んぼに肥料をまき、水の見回りをし、刈り取りが遅れないよう例年より早めに収穫し、丁寧にお米の調整をしました。残念ながら、お米の見かけの品質を表す等級は、暑さに少し弱い【コシヒカリ】では、1等が少なく2等と3等が多くなりました。しかし、新しい品種の【新之助】では、農家の方々の努力の甲斐もあり、平年並に1等が多くなりました。【コシヒカリ】の等級は低くなってしまいましたが、味と等級は関係がなく、2等・3等のお米も1等と味は変わらないという調査結果があります。お米を販売している業者の方からは【コシヒカリ】の味に関する苦情はなく、順調な売れ行きだと聞いています。

これからも夏の暑さは厳しくなると予想されていることから、新潟では暑さに強い品種の割合を増やし、肥料をまく量や時期、田んぼの水の出し入れを少し変える等の工夫をして、夏の高温に負けないように栽培していきます。

引き続き、新潟米をよろしくお願ひします。

(新潟県農林水産部経営普及課 羽鳥副参事)

農業を元気に！ 福祉を元気に！ 地域を元気に！

【農福連携】農業と福祉が連携することで、障がいがある方が、農業分野で活躍する事を通じて、農業経営の発展と共に、障がいある方の自信や生きがいを創出し社会参画を実現しています

【農福連携セミナー】開催ご案内

～多数のご参加をお待ちしております～



新潟市での【農福連携の未来】を考える会

～『明るい未来』一緒に考えてみませんか？～

新潟市内の農業・福祉の現状を改めて確認しながら、これからの可能性について考えたいと思います。つきましては、多数の皆様方にご参加頂きたく、ご多様な時期と思いますが是非ご検討下さい。

2024年 3月7日(木) 14時15分～16時30分

会場 新潟市総合福祉会館 4階
※駐車場はありますが、台数に限りがあります。近隣有料駐車場のご利用を、お願い致します。

◆募集定員◆

30名(先着順)

※当日の詳細は、締め切り後になりますが、参加者へ直接ご連絡致します。

◆締め切り◆

2024年 2月29日(木)

定員になり次第、募集を締め切らせて頂きますので、予めご了解ください。

◆申し込み方法◆

下記、①または②より、お申し込みください。

お手数ですが参加者(1名)毎に、お申込みをお願い致します。

① URLからの申し込み案内

<https://forms.office.com/r/StS8Tpt8iZ>

② 2次元コードからの申し込み案内



コーディネーター

・阿部貴美氏

《新潟食料農業大学キャリア支援課 課長》

農業系専門学校の設立や農業法人経営の経験が有り、現在は食品関連産業の研究と教育の新たな軸として設立された教育機関において就職・進学等、卒業後の進路支援に、ご尽力されています。

パネリスト

・立川喜彦氏

《農事組合法人あけぼのクラブ 代表理事》

江南区にて、水稲を含む土地利用型農業をメインとし、冬季はさのこ等を生産。大豆加工製造で福祉との連携経験があり、また農業と社会との垣根の無いつながりを目指し、ご尽力されています。

・円山広克氏

《にいがた共創株式会社 代表取締役社長》

農産物の流通をコーディネートするなかで、農業者が負担に感じている作業を福祉施設へ繋ぐことにも取り組まれる等、地産地消・地域活性にご尽力されています。

・長谷川一栄氏

《新潟市障がい福祉課就労支援係》

～お問い合わせ先～ 新潟市あぐりサポートセンター
電話:025(256)8383 《担当:佐藤》 Mail:aguri@atago.or.jp

主催:新潟市あぐりサポートセンター
共催:新潟市

◆福祉事業所紹介◆

特定非営利活動法人 ゆうーわ

◇サービス内容：就労支援 B 型 （平成20年設立）

◇対象とする障がい種別：知的・発達 ◇利用者平均年齢：27.3歳

◇主な作業内容：シフォンケーキ・パンの製造・販売、もち麦の精麦・販売、大豆の選別、シール貼り、メーター分解、野菜カット、カフェ（隣接）での調理・接客、農作業（施設外）



～日々の作業の様子をお聞きました～

1人の利用者さんだけで仕上げるのが難しい作業であっても、細分化して複数人で行う事で完成しています。同じ加減で確実な（正確）な仕上がりになるよう、1工程終わると移動して完成品を置き、支援者に報告する等の行動を定期的に入れる事で、集中が継続できる様にしています。一見、効率が悪いように感じるやり方ではありますが、リセットできる行動を入れる事で不良品を出さずに、利用者のみで確実に仕上げる事ができています。

特性には個人差があるため職員間で日々、情報共有しながら個々の得意を活かした作業が出来るよう心掛けています。また、個々のやる気を大切に、作業を通して自立に必要な力を身につけて、働く喜びを得られる様に支援しています。

直ぐに上手くできず難しそうにしている、繰り返す事で着実に成長していけるよう、ひとりひとりに寄り添いながら支援に当たっています。【出来るが増え、本人と共に喜びあう事】が職員にとってのやりがいとなっています。

ゆうーわでは、シフォンケーキや大麦パンも作っていますし、カフェなどもやっていますので、お気軽にお越しいただけますと幸いです



※【ゆうーわ】の皆様、ご協力ありがとうございました。



◆冬場の施設外作業◆

施設外での農作業は、冬期間は依頼が少なくなりますが【大根の収穫作業】や【果樹畑の枝集め】等、作業可能な天候の日に、実施しているところがあります。

果樹畑での枝集めは、収穫が終わったブドウや梨等の伸びた枝を農業者が切り落としたモノを集める作業になります。

果樹の【剪定】と呼ばれる枝を切り落とす作業は、年間で複数回実施される場合もありますが、樹木の成長が休んでいる冬期間に行う事が多く、栽培していく上で必要な作業です。枝が伸び過ぎてしまうと、日当たりや、風の通りが悪くなります。それは、病害虫の発生や果実の成長に影響します。

『葉に日光が当たるように』『花芽を落とさないように』等と、枝を見ながら切るため知識や経験が必要で、誰でも可能な作業ではありません。しかし、切り落とした枝を集める作業は、やり方がわかれば出来る作業です。

様々な作業の一部を任せる事で、農業者は別の作業に集中する事が出来ます。



＜お問い合わせ先＞

新潟市あぐりサポートセンター

所在地：新潟市中央区八千代1-3-1 新潟市総合福祉会館1F

連絡先：(Tel) 025-256-8383【担当：佐藤】

(Mail) aguri@atago.or.jp

